



北斗句会

令和四年二月定例会（二日） 兼題 「雪」「帽」

五十音順 特は特選 石田きよし選

雪まとひほつこり貌の地蔵尊 大崎石州

髪形に成人式の主張かな 大森康正

特 ふんはりと芽につれなくも春の雪 竹内雲泉

特 雪降るや遊行の道へ又一步 田中資凡

一身に余光引き寄す雪の富士 長池豆陽

立春の朝日をあぶる鬼の面 藤田紀潮

野球帽長寿の基梅探ぐる 宮下ひかる

特 限りなく降る雪肩に伍長像 森田光彦

ひと筋の夕陽映ゆるや冬の池 山縣秀雄

特 蒼天に締め寒柝響きけり 吉岡誠山



ひと列車遅らせ湖の鳩とゐる 石田きよし